

令和2年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第1号
(4月の発生予想)

令和2年4月1日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【大麦】

赤かび病	量：並 程度：少発生 時期：早い	① 前年の発生は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。(±) ② 出穂期は平年より早く、4月中旬と見込まれる。 ③ 出穂期以降の気温は平年に比べやや高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
雲形病	量：少ない 程度：少発生	① 前年の発生は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推定される。(－) ② 3月下旬の発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～－)

【冬春トマト（施設）】

灰色かび病	量：やや多い 程度：少発生 (果実発病度1～20)	① 3月下旬の発生は平年多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～－)
	【防除上の留意事項】 ① 株の繁茂やハウス内湿度の上昇は発生を助長するので、送風、換気等を行い施設内の湿度低下に努める。 ② 咲き終わった花卉やチップバーン等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。 ③ 予防に重点をおいた薬剤散布を行う。ただし、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。	
すすかび病	量：多い 程度：少発生 (葉発病度1～20)	① 3月下旬の発生は近年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～＋)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (寄生株率1～10%)	① 3月下旬の発生は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (1複葉当たり寄生数0.01～9)	① 3月下旬の発生は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生花率1～10%)	① 3月下旬の寄生は平年比やや少なく(－)、白ぶくれ症果の発生は近年比多い。(±～＋) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【冬春いちご（施設）】

灰色かび病	量：やや多い 程度：少発生 (発病果率1～5%)	① 3月下旬の葉の発生は平年比やや多く、果実の発生は平年比多い。(+) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～-)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 多湿条件で発病が多くなるため、茎葉が過繁茂の場合は下葉を除去し、風通しを良くするとともに、かん水過多にならないよう注意する。</p> <p>② 発病した葉や果実等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。</p> <p>③ 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。</p>		
うどんこ病	量：並 程度：少発生 (発病果率1～5%)	① 3月下旬の発生は葉の発生は平年比少なく、果実の発生は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～25%)	① 3月下旬の発生は平年比やや少ない。(－～±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生花率1～2%、 被害果率1～5%)	① 3月下旬の発生は花への寄生、果実の被害とも平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)
アブラムシ類	量：多い 程度：少発生 (寄生株率1～25%)	① 3月下旬の発生は平年比多い。(+) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)
ハダニ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率1～40%)	① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多
いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発
生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、
(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使
きましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の
生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

U R L：https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/

【参考】北陸地方 1か月予報（3月28日から4月27日までの天候見通し）
（新潟地方气象台：令和2年3月26日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	20	40	40
降 水 量	30	40	30
日照時間	40	30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（3月28日～ 4月 3日）	10	30	60
2週目（4月 4日～ 4月10日）	30	40	30
3～4週目（4月11日～ 4月24日）	30	30	40